

一次元配列

A 一次元配列

一次元配列の宣言は、次の書式で記述する。

データ型 配列名 [要素の個数] ;

【例】 `int a[5];`

この例では、a という名前の整数型配列が以下のように確保される。

a[0]	a[1]	a[2]	a[3]	a[4]
------	------	------	------	------

宣言時に指定したのは要素の個数であり、プログラム中で配列を使用する場合には、0～4（要素の個数－1）番の要素を扱うことにじゅうぶん注意すること。

B 二次元配列

二次元配列の宣言は、次の書式で記述する。

データ型 配列名 [要素の個数] [要素の個数] ;

【例】 `int b[3][4];`

この例では、b という名前の整数型配列が以下のように確保される。

b [0] [0]	b [0] [1]	b [0] [2]	b [0] [3]
b [1] [0]	b [1] [1]	b [1] [2]	b [1] [3]
b [2] [0]	b [2] [1]	b [2] [2]	b [2] [3]

```

#include <stdio.h>
int main(void)
{
    int i,key;
    int box[5]={786,386,831,23,865};
    scanf("%d",&key);
    for (i=0;i<5;i++){
        if(box[i]==key){
            printf("key=box[%d]¥n",i);
            break;
        }else{
            printf("%d に該当する数値はありません¥n",key);
        }
    }
    return 0;
}

```

786
key=box[0]

1
1 に該当する数値はありません
1 に該当する数値はありません
1 に該当する数値はありません
1 に該当する数値はありません
1 に該当する数値はありません